

ISSN 0919-0120

2010.6 No.72

## 目次

- ・西三河山間部における山茶碗の分布 ..... 2
- ・新収集資料紹介「図画帳」 ..... 3
- ・埋蔵文化財調査ニュース ..... 4
- ・平成21年度埋蔵文化財調査の概要 ..... 5
- ・平成21年度文化財保護事業報告 ..... 6
- ・豊田市近代の産業とくらし発見館平成21年度事業報告 ..... 7
- ・歴史的町並みの保存とまちづくり ..... 7
- ・文化財シリーズ72 県指定文化財 市場城跡 ..... 8
- ・資料館NEWS ..... 8

# 豊田市 郷土資料館 だより

No.72

Toyota City Museum  
Of  
Local History



# 西三河山間部における山茶碗の分布

## ー藤岡・小原・足助・旭の遺跡詳細分布調査よりー

平成18年度から現在に至るまで、豊田市では合併町村の「遺跡詳細分布調査」を行ってきました。これまでに藤岡地区・小原地区・足助地区・旭地区・稲武地区の踏査を終え、残すは下山地区のみとなり、調査も佳境に入っています。これらの地域では、一部地域を除いて発掘された遺跡が少ないことから資料が十分になく、中世以降の遺跡については関心が低かった点から、歴史時代を対象とした考古学的な研究は活発には行われてきませんでした。そこで今回は、分布調査で最も多く採集された山茶碗を分類し、各地区の山茶碗の分布傾向を捉え、西三河山間部（藤岡・小原・足助・旭地区）の中世について考えてみたいと思います。

山茶碗とは、主に鎌倉～室町時代に東海地方で生産・流通し、人々の間で利用された日常雑器です。産地によって器形や胎土に違いがあり、尾張型（愛知県尾張地方）、東濃型（岐阜県東濃地方）、渥美・湖西型（愛知県三河地方東部・静岡県遠江地方西部）、東遠型（静岡県遠江地方東部）、美濃須衛型（岐阜県各務原市）に分類されています。西三河山間部では、主に尾張型と東濃型が流通していたとみられます。下のグラフは、各地区で採集された山茶碗片を分類・集計したものです。藤岡では尾張型1187点・東濃型207点、小原では尾張型59点・東濃型188点、足助では尾張型

129点・東濃型43点、旭では尾張型176点・東濃型480点の山茶碗を採集しました。尾張型・東濃型共に、時期はおおよそ12世紀後半～15世紀頃のもので、尾張型・東濃型以外の類型は確認されていません（平成22年4月集計時点）。

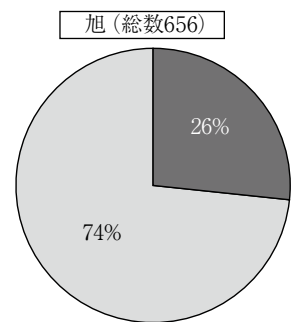
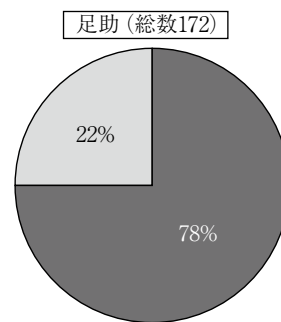
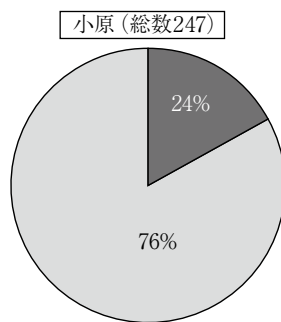
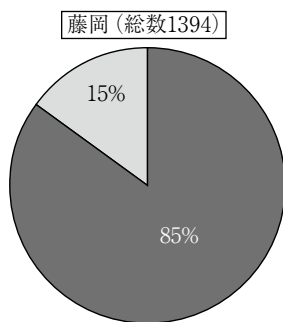
藤岡は、13世紀中頃から地区内に尾張型山茶碗を生産した「藤岡窯」が存在したため、圧倒的に尾張型が優勢となっており、特に窯に近い遺跡では、他遺跡よりも多く尾張型山茶碗片を採集しました。採集した山茶碗片は13世紀以降のものが大半を占め、藤岡窯で山茶碗が生産された期間とほぼ合致します。足助も同様に、尾張型が優勢です。おそらく藤岡窯で生産されたものと考えられます。東濃型は、主に北部で採集されており、南部の方が少ない傾向が見られます。一方、岐阜との県境に位置する小原と旭では東濃型が優勢で、産地に近い北部や矢作川沿いの遺跡から多く採集されています。こちらの山茶碗も13世紀後半以降のものが大半を占めており、尾張型・東濃型の山茶碗は、産地は異なりますが、流通した時期はほぼ同じということがわかりました。



左：山茶碗・右：山茶碗小皿（今町宮之後遺跡、豊田市今町）



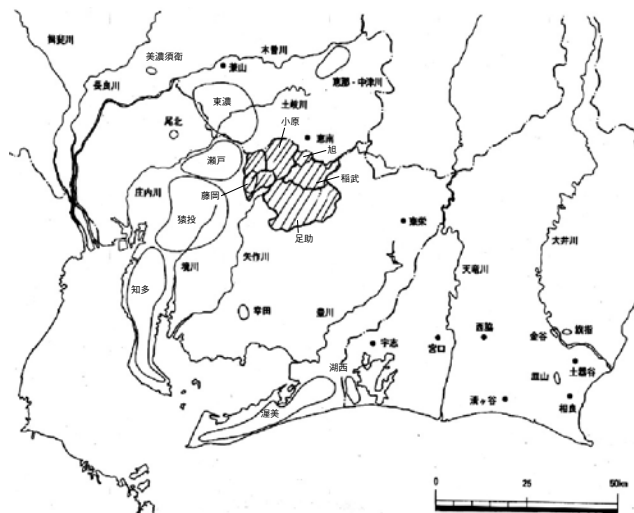
分布調査で採集した山茶碗片（大屋遺跡、藤岡地区深見町）



円グラフ：採集した山茶碗の比率 ■尾張型・□東濃型

この地域では、元々、縄文時代と中世の遺跡が多い反面、その中間にあたる弥生時代～平安時代の遺跡は少ないと報告されていました。分布調査でも、やはり弥生時代の土器、古墳時代～奈良時代の須恵器、平安時代の灰釉陶器は、あまり採集されませんでした。一方、中世の遺跡とされた地点では、中世陶器片が多く採集されました。陶器片を時期ごとに分類した結果、中世でも前期と後期では遺物の量に大きく差があることがわかりました。特に13世紀～15世紀前半の山茶碗がそれ以前よりもかなり多いことから、単純に断定できませんが、この期間に多くの集落が増加、発展したのではないかと推測されます。表面採集資料のため資料的制約はありますが、それでも中世のある時期から遺物量が急増する現象は無視できるものではないと思います。今後は遺物・遺跡の他、文献史料等を併せて検討を重ね、西三河山間部の中世集落の様相の解明に努めていきたいと思っています。

(南山大学大学院 嶋田奈緒子)



図：藤岡・小原・足助・旭と主要窯業地の位置  
(藤澤良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要第3号』三重県埋蔵文化財センター 第1図 に一部加筆)

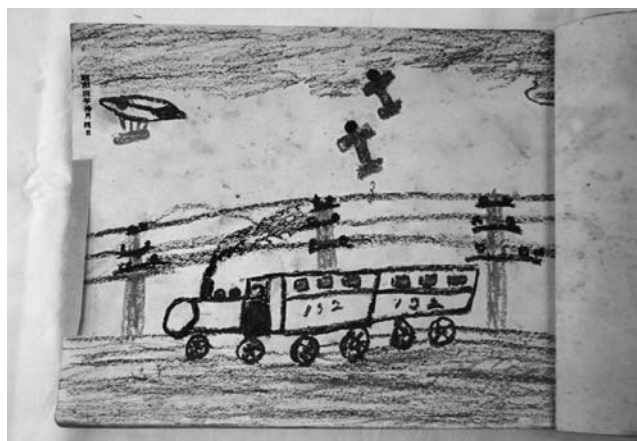
## 新収集資料紹介

### 「図画帳」昭和4年～10年 4冊(平成21年度寄贈資料)

大正時代から昭和初期にかけて市内で学校の教諭をされていた方から教育関係資料が寄贈されました。教科書、学校の日誌のほかに当時の子ども達が描いた絵を綴った「図画帳」があります。この図画帳は挙母第一尋常小学校のもので現在の挙母小学校の前身にあたります。

「図画帳」は昭和4年(1929)、5年、6年、10年の4冊、見本を全員で模写したもの2冊、校外写生の絵、自由画が各1冊あり、それぞれ保護者に回覧されたことがわかります。模写の絵は、形の捉え方や色の塗り方の違いを見比べる事ができ、現在の表現を重視する図工教育との違いを感じます。また自由画の中には軍艦や戦闘機が描かれるなど当時の子どもたちをとりまく文化や世相を垣間見ることができます。

校外写生は昭和5年のもので学校の前の土手で南側を向いてそれぞれに写生したとあり、田や家、煙突からの煙、工場の建物など当時の挙母町の様子を想像することができる資料です。



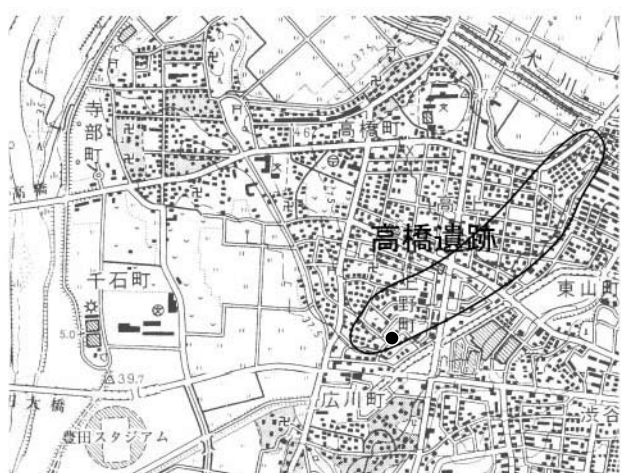


# 埋蔵文化財調査ニュース



平成22年2月3日から3月8日まで個人住宅建設に伴い上野町8丁目で発掘調査を行いました。現場は高橋遺跡の南西端部に位置しています。

高橋遺跡は豊田市を代表する遺跡で、高橋町・高上・上野町に広がり、市内だけでなく矢作川流域においても最大級の遺跡であると考えられています。昭和41年（1966）に行われた第1次調査から平成21年までに19回もの調査が行われてきました。その結果、現状としては上野町8丁目から高橋町7丁目にかけて広がることが分かっています。また、遺跡北東部には墓域が多く存在するのに対し、南西部には住居跡が多く確認されており、弥生時代から存在すると考えられています。



調査位置

●：調査位置

過去の近隣地での調査結果から、埋蔵文化財が発見される可能性が高いと判断されたため、試掘調査（ショベルカー等のバケット幅で試し掘りを行い、住居跡等の遺構や土器・石器等の遺物が含まれる地層の有無を確認すること）を行いました。その結果、遺構が確認されたため、継続して本調査を実施することとなりました。

現場は高橋遺跡第13・第18次調査地区と近接しています。第13・18次調査地区は遺跡南西部に位置し、古代～中世の掘立柱建物等が確認されている場所です。

本調査の結果、確認された遺構は溝1条・竪穴建物1棟・掘立柱建物2棟・ピット24基・土坑1基です。

遺物は須恵器、灰釉陶器、土師器、山茶碗、瀬戸系施釉陶器（天目茶碗）が出土しました。遺構・遺物の時代は、大きく古代・中世～近世初頭に分けられます。



調査風景

昭和50年代頃に建築された個人住宅が多く存在する高橋遺跡の範囲内では、近頃、住宅の建替えや新築が多く、これからも試掘調査や本調査等が増えていくと予想されます。

（井上 直己）



完掘状況（掘立柱建物）

# 平成21年度埋蔵文化財調査の概要

## ○開発等事業予定地の遺跡の有無照会

住宅建設や宅地造成、開発の事前調査といった各種開発に伴って文化財課へは埋蔵文化財の有無が照会されます。近年の照会件数は平成18年度568件、平成19年度728件、平成20年度726件です。平成21年度は781件で、近年の中では最も多く、遺跡（埋蔵文化財包蔵地）に該当したものは340件ありました。地区別では表1のような内訳で、昨年同様に猿投・高橋・挙母地区が多くなっていますが、昨年に比べると旧町村地区での増加が目立っています。また、内容別では住宅建設、電信電話・ガス施設の事前調査、不動産鑑定などが多くみられます。

| 地区 | 猿投      | 挙母      | 高橋      | 松平    | 高岡     | 上郷     |
|----|---------|---------|---------|-------|--------|--------|
| 件数 | 119(59) | 199(82) | 133(80) | 13(2) | 67(18) | 25(12) |
| 地区 | 藤岡      | 小原      | 足助      | 下山    | 旭      | 稲武     |
| 件数 | 59(36)  | 16(1)   | 62(17)  | 33(5) | 27(12) | 28(16) |

表1 地区別の照会件数  
( ) は埋蔵文化財に該当した件数

## ○開発に先立つ届出

| 地区 | 民間 | 公共 | 主な遺跡            |
|----|----|----|-----------------|
| 猿投 | 10 | 5  | 伊保遺跡・花本遺跡       |
| 挙母 | 13 | 2  | 瑞穂遺跡・七州城跡・常盤町遺跡 |
| 高橋 | 17 | 0  | 高橋遺跡・寺部遺跡       |
| 松平 | 0  | 0  |                 |
| 高岡 | 4  | 0  | 駒場瓦窯            |
| 上郷 | 2  | 0  | 郷上遺跡            |
| 藤岡 | 3  | 2  |                 |
| 小原 | 0  | 0  |                 |
| 足助 | 3  | 2  | 宮平遺跡・宮ノ後遺跡      |
| 下山 | 0  | 2  |                 |
| 旭  | 1  | 4  | 上万場遺跡           |
| 稲武 | 2  | 0  |                 |
| 計  | 55 | 17 |                 |

表2 地区別届出数一覧

遺跡内での開発には文化財保護法により届出・通知が必要です。平成21年度は民間開発事業55件（前年比－4）、公共事業17件（前年比＋3）ありました。昨年度と同様に旧市内の挙母・高橋・猿投地区で多く出され、旧町村地区では藤岡・足助・旭地区で多くなっています。遺跡別では高橋遺跡が最も多く7件で、次いで瑞穂遺跡・七州城跡・寺部遺跡・伊保遺跡での届出が多くなっています。また、事業別の内訳は民間開発のうち半数が個人住宅の建設や宅地造成によるもので、ほかに事業系建物の建設・通信塔の建設・ガス工事等が

ありました。公共事業では道路工事などによるものでした。これらへの対応は〔工事立会〕49件、〔確認調査・試掘調査〕14件、〔本調査〕3件、その他6件でした。また、表3・4は調査を実施した遺跡の概要です。

| 遺跡名(所在地)          | 調査原因    | 調査面積(m <sup>2</sup> ) | 主な遺構     |
|-------------------|---------|-----------------------|----------|
| 寺部遺跡・勸学院文護寺跡(寺部町) | 住宅建設    | 57.75                 | 竪穴建物     |
| 高橋遺跡(上野町)         | 住宅建設    | 50                    | 掘立柱建物    |
| 今町宮之後遺跡(今町)       | 河川工事    | 4,520<br>(前年度から継続)    | 石積み・竪穴建物 |
| 亀首遺跡(亀首町)         | 道路工事    | 2,674<br>(前年度から継続)    | 掘立柱建物    |
| 郷上遺跡(鴛鴨町)         | 事業用建物建設 | 18.25                 | 土坑・溝     |

表3 本調査を実施した遺跡一覧

| 遺跡名(所在地)     | 調査原因   | 調査面積(m <sup>2</sup> ) |
|--------------|--------|-----------------------|
| 鳳面館跡(千足町)    | 住宅建設   | 9.6                   |
| 駒場瓦窯(1)(駒場町) | 住宅建設   | 2.5                   |
| 駒場瓦窯(2)(駒場町) | 住宅建設   | 2.5                   |
| 伊保遺跡(保見町)    | 住宅建設   | 7.7                   |
| 向山古墓(乙部町)    | 道路建設   | 50                    |
| 江古山遺跡(東保見町)  | 宅地造成   | 200                   |
| 荒子遺跡(迫町)     | 住宅建設   | 8                     |
| 高橋遺跡(高上)     | 事業所建設  | 9.2                   |
| 鳥狩塚古墳(渡刈町)   | 駐車場整備  | 20                    |
| 駒場瓦窯(3)(駒場町) | 住宅建設   | 11.2                  |
| 寄畔遺跡(水源町)    | 住宅建設   | 6.6                   |
| 岩長遺跡(百々町)    | 住宅建設   | 4.9                   |
| 寺部遺跡(寺部町)    | 住宅建設   | 3.15                  |
| タヒラ遺跡(稲武町)   | 住宅建設   | 4.8                   |
| 寺部遺跡(上野町)    | 公共施設建設 | 386                   |

表4 確認調査・試掘調査を実施した遺跡一覧

この他、届出のない電柱工事など軽微な工事に伴う立会いが数十件あったほか、開発事前協議や土地利用対策会議にかけられ、遺跡の有無確認をしたものが25件ありました。また、旭・稲武地区の遺跡詳細分布調査や花園地区の遺跡詳細分布調査を実施しています。

## ○発掘調査報告書刊行

国庫補助事業を対象とした『平成20年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書』を作成したほか、豊田市埋蔵文化財調査報告書第39～44集として『宮平遺跡』・『今町宮之後遺跡』・『高根越1・2号窯跡』・『豊田市の縄文遺跡』・『枋原遺跡』・『堂外戸遺跡』を刊行しました。

(杉浦 裕幸)

# 平成21年度文化財保護事業報告

## ■文化財保護事業

### 1 文化財保護審議会 5回

答申4件・諮問1件

文化財防火デー：長興寺・平勝寺始め5カ所

### 2 埋蔵文化財 (5頁参照)

### 3 文化財指定 3件

指定日：平成21年6月9日

遊佐家長屋門：有形文化財（建造物）

松本家長屋門：有形文化財（建造物）

荻屋岡本家住宅：有形民俗文化財

### 4 文化財等保存維持・修理補助事業

有形民俗文化財保存修理

3件（荻屋岡本家住宅ほか）

文化財保存施設整備1件  
（平勝寺）

有形民俗文化財保存維持

16団体（喜多町ほか）

無形民俗文化財保存維持

37団体（棒の手・はやしほか）

伝統的郷土芸能保存維持

24団体（西山万歳ほか）

伝統的郷土芸能保存修理

3団体（足助西町お囃子会ほか）

郷土の先人顕彰活動

5団体（松平親氏公顕彰会ほか）

郷土史調査研究

1団体（豊田市郷土史研究会） 総数90件

### 5 史跡・建造物等整備・修理

史跡看板更新（舞木庵寺・挙母土場ほか）

足助中馬館耐震工事（県指定建造物）

村上家千巻舎修理（市指定建造物）

隣松寺本堂保存修理工事報告書作成

## 6 その他

足助町伝統的建造物群保存対策調査

ニホンカモシカ死体処理15件

## ■郷土資料館事業

### 1 展示・入館者数

平成21年度入館者数 18,907人

特別展「塩の歴史と民俗」 10/30～12/6 1,760人

企画展「遺跡を探せ！」 5/30～7/5 1,583人

企画展「古い道具と昔の暮らし」

7/18～10/18 4,446人

ミニ企画展「資料館のひなまつり」

2/7～3/7 5,448人

### 2 資料調査

とよたの祭事記録（羽布の送り神）

指定文化財調査・撮影

民具資料整理（藤岡民俗資料館始め7カ所）

出土遺物整理（稲武郷土資料館始め6カ所）

### 3 資料収集・複製・修復

渡邊半蔵重綱画像（市指定）修復

### 4 講座ほか

「こどもの日によろいを着てみよう」

始め18講座 1,203人

博物館館務実習受入5人（9月）

### 5 近代の産業とくらし発見館（7頁参照）

## 6 その他

全国近代化遺産活用連絡協議会全国大会の開催

（仮）豊田市ふるさと歴史館基本構想の検討

スクールサポート事業の推進（113校7,579人の小中学生が利用）

地域学習サポーターの育成（藤岡地区）



# 豊田市近代の産業とくらし発見館 平成21年度事業報告

豊田市近代の産業とくらし発見館（通称『発見館』）では、昨年度3回の企画展をはじめ、モノづくり講座や見学会など各種事業を開催しました。なかでも、豊田市の礎を築いたトヨタ自動車の創立者豊田喜一郎と第10代挙母町長中村寿一の出会いから77年目（喜寿）を記念して開いた企画展「喜一郎と寿一ーとよた誕生秘話ー」では、初代クラウンやカローラの試乗、喜一郎ゆかりの地探訪などの企画も実施し、好評を得ました。



喜一郎の別邸を訪ねて

平成22年度は、「発電所」や「挙母駅90周年」をテーマとした企画展や特別展を計画しています。開催行事の情報は、発見館のホームページやブログ、広報とよたなどでそのつどお知らせしますので、ぜひご参加ください。

## （平成21年度開催事業等）

平成21年度年間来館者数15,847人

### 企画展

「まゆまつりーカイコの一生と養蚕ー」

（期間：4月25日～6月28日、来館者数2,658人）

「喜一郎と寿一ーとよた誕生秘話ー」

（期間：7月7日～10月4日、来館者数5,397人）

「しもやま 森の恵みー近代からのぞく下山ー」

（期間：11月17日～2月28日、来館者数5,065人）

### モノづくり講座

五月飾り／ランプシェード／まゆ花づくり／真綿づくり／鋳造アクセサリー

### 見学会

養蚕農家のくらしを知る／喜一郎と寿一の出会いをめぐる／散策 しもやまの森／枹塚味噌蔵めぐり

### その他

特別展示「トヨタ創成期の車、トヨタAA、トヨペットクラウン、カローラ展」／下山物産展

## 歴史的町並みの保存とまちづくり ー伝統的建造物群保存地区制度ー

全国各地には、農村集落や商家・宿場町など歴史的町並みが今も多く残されています。近隣では美濃市美濃町（商家町 岐阜県）や妻籠宿（宿場町 長野県）など歴史的町並みを活用したまちづくりが展開されています。こうした集落・町並みは何代も受け継がれてきた貴重な日本の文化遺産であり、歴史や文化を理解するうえでも大変貴重なものです。昭和50年（1975）の文化財保護法の改正では、歴史的な町並みを構成している伝統的な建造物群とその周囲の景観を一体として捉え、これを保存していくため「伝統的建造物群保存地区（伝建地区）制度」が創設されました。この制度は、住民が暮らしながら伝統的な建造物を保存することができるため、まちづくりの手法としては最適と考えられています。伝建地区の中でもさらに価値が高いものについては「重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）」として、市町村の申出により国が選定し

ます。近隣では美濃市美濃町や妻籠宿が重伝建地区に選定されています。

愛知県内には伝建地区がまだ一つありませんが、足助町には歴史的町並みが残されています。現在、足助町の歴史的町並みを活用したまちづくりに向け、地域住民と市で伝建地区制度の導入について議論を進めています。



足助の町並みと周囲の景観

## 文化財シリーズ



### 県指定文化財 市場城跡

市場城跡は、標高380mの山頂にある室町時代の山城です。山頂の郭が本丸跡で、その南東面には石垣・土塁が築かれています。室町時代の城跡は県下には多く残っていますが、石垣を築いたものは、市内ではこの市場城跡と大内町の大給城跡の2カ所のみで、大変貴重なものです。

また、堀と土塁が斜面にそって連続している畝状空堀群が見られます。畝状空堀群は戦国期の城作りによく用いられた手法ですが、愛知県内においてはここと小渡城で確認されているだけです。

市場城は、はじめ鈴木親信が文亀2年（1502）に市場古城から移って築いたといわれ、代々鈴木氏の居城であったと伝えられています（『三河国西加茂郡誌』）。天正11年（1583）、城主鈴木重愛は徳川家康からの所領の加増を受け、城の大改修を行いました。しかし、自らの力を誇るところがあり、羽柴

秀吉（或いは家康）に従わず、文禄元年（1592）小原から退去させられました。重愛の退去と同時に市場城も破却され、廃城になったということです（『愛知県史蹟天然記念物調査報告』）。

現在でも、城に石垣が築かれ始めた16世紀後半頃によくみられる、比較的小さい自然石で作られた野面積み石垣を見ることができます。また本丸跡には、かなり広い平地があり、小原地区を見下ろすことができます。



市場城跡の石垣

## 資料館 NEWS

### 「春休み子ども週間」を開催しました。

3月20日(土)～4月4日(日)に「春休み子ども週間～しりょうかんで昔の遊びをやってみよう！～」を開催しました。だるま落としに夢中になる子どもや、竹でできたてっぽうでのあてを楽しむ姿が見られました。

ワークショップ「桜の木に花を咲かせよう！」では、子どもたちに江戸時代から伝わる、紙を折って切る「紋切り」で桜を作り、新学期の願い事を書いてもらいました。子どもたちの願い事は「ヒーローになりたい」や「アイスクリーム屋さんになりたい」など、一人一人の個性が感じられて



興味深いものでした。資料館の庭にある本物の桜が開花していくのと連動して、紋切りの桜の木もたくさんの願い事で徐々に満開になりました。

### 企画展「古い道具と昔の暮らし展 ～電気がなかった頃の暮らし～」を開催します。

6月19日(土)～10月17日(日)

※月曜休館・入場料無料

この企画展では、電気がなかった頃の道具の展示を行い、実際に昔の道具を使ってみる体験コーナーを設置します。ぜひご来館ください。



### 利用案内

開館時間 9：00～17：00

休館日 毎週月曜日（祝祭日は開館）

入場料 無料（特別展開催中は有料）

交通 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分

名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分

愛知環状鉄道「新豊田駅」より 徒歩15分

駐車場 約20台

### ■豊田市郷土資料館だより No.72 ■

平成22年6月14日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471-0079 豊田市陣中町1-21

☎ (0565) 32-6561 FAX (0565) 34-0095

E-mail : rekihaku@city.toyota.aichi.jp

URL : <http://www.toyota-rekihaku.com>

※豊田市郷土資料館だよりはHPでもご覧になれます。